

人物往来

ボランティアの醍醐味

西島 米原 ミヤ子



この度は、府社協より、会長賞をいただき、心より感謝申し上げます。

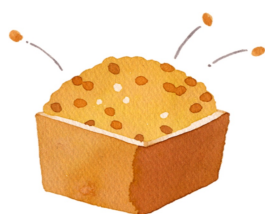
思えば平成6年8月1日付けで委嘱状を承り、経験値が低く不安だらけの私が、今日まで来られましたのも、先輩と支えてくださった皆様のお陰と感謝いたしております。

民生委員として、地域のボランティア活動の中で、老若男女、多くの方々と出会い、たくさんの学びをいただくことができました。いつの頃からか児童見守り隊が発足し校下ごとに編成され、メンバーに加えていただき、登下校する子どもたちが安全で事故のない様にと、ひと声かけながらの日々でした。毎朝、集まって来る子たちの様子に「みんな揃ったね」「班長さん出発しましょう」とか「〇〇ちゃんお休みかな?」などと変化に気をつけながら、共にお世話下さる方と語らいながらの見守りでした。同時に行き交う中学生に「おはよう」と声をかけ「おはようございます」と元気よくかえしてくれる子どもたちに、なんとも心地良い至福のひとつときをいただいていたのです。

そして2年前のことです、区が催す成人式での嬉しい一コマが思い出されます。私もスタッフの一員としてお手伝いしておりました。多くの新成人が集う中の一人が「アッ!おばちゃんや」「見守り隊のおばちゃんや」との声に（誰だったかな）と私・顔をみながら「イヤー蓮君やネ」と、思えば8年前の卒業生だったのです。「今日は成人式おめでとう」と、思いがけない再会を喜びました。

こうして、地域の中で多くの人たちとふれあい、かかわりの中で得られた賜であり、（これぞボランティアの醍醐味だ）と思ったのです。

昨年より、コロナ感染拡大のため、見守り活動はできていませんが、いずれ再開できる日が来るとおもいます。ひとりでも多くの児童の健全育成に協力できる私でありたいと思います。



主任児童委員としての意義

西九条 川本 広美



此花区主任児童委員になって、2期目もあと1年を残す頃となりました。この間に、本当に色々な研修会や講演会への参加、地域施設への訪問などの普段の生活では知る事のできない貴重な経験をさせて頂いたと思っています。私自身、現在は小学校1年生から0歳の5人の孫がおり、日々、子どもの健やかな成長を心から願っている一市民です。しかし現在はコロナ禍・格差社会・貧困・いじめ・虐待など、無力な子どもたちが影響を受けやすい社会問題が溢れています。

これらの問題に対峙するには、行政と地域とが一体となり、地域でできるきめ細やかな見守り・声掛け・留意、行政の行うケア（対応）をしっかりと遂行する事。主任児童委員として活動してきた中で、このことがとても大切だと気づかせて頂きました。

コロナウィルスによる緊急事態宣言なども発令され、活動自体が制限される事もありましたが、例えば近くのスーパーに買い物にでかける際には、夕方の公園の前を通り、遅くまで一人でいる子どもがいなかったかを確認したり、時間に遅れて登校している子どもに、笑顔で「いってらっしゃい」などの声かけをしたりと、どんな時でも活動することができます。これも地域の主任児童委員としてのいいところでは、と思っています。

この先、子どもたちが笑顔で安心して暮らせる社会が、この此花から発信できる街になってくれる事を願ってやみません。

編集後記

コロナ禍で昨秋に延期された区の総会も中止となる中、各地域で工夫しながら委員活動に取り組みされていることに敬意を表します。本紙2面でもご協力をお願いしましたように、次の号でこの「ちゅーりっぷの風」が50号を迎えることとなります。これを記念し、特別号として編集したいと考えておりますので、皆様からの投稿をお待ちしています。重ねてよろしくお願いします。

編集委員会